

M7CL V3 Editor for Win

主なアップデート内容

EditorV3.5.1 for Win/Mac

修正した不具合

- Output Port ウィンドウで、MONITOR OUT L/R/C チャンネルが割り当てられたポートのディレイタイムやディレイのオン/オフの設定が、実際とは異なって表示される不具合を修正しました。
- Output Port ウィンドウでディレイタイムを数字で直接入力した場合、アンドウできない不具合を修正しました。
- Main View としての Selected Channel ウィンドウで MATRIX チャンネルが選択されている場合、Additional View としての Selected Channel ウィンドウで Send Point を一括で設定できない不具合を修正しました。

EditorV3.5.0 for Win/Mac

新機能

- ユーザー定義キーに割り当て可能な機能として、ALTERNATE FUNCTION を追加しました。
- M7CL 本体の OUTPUT PORT ポップアップウィンドウのように、出力ポートのディレイなどが設定できる OUTPUT PORT ウィンドウを追加しました。
- MIX ウィンドウや ST/MONO ウィンドウでも SENDS ON FADER を使用して MATRIX バスへのセンドを調整できる機能を追加しました。
- MIX バスおよび MATRIX バスに送る信号の送出位置を一括して PRE/POST に設定できる機能を追加しました。
- Selected Channel ウィンドウの TO MIX、TO MATRIX、FROM MIX、ST/MONO にチャンネル名を表示する機能を追加しました。

- CHANNEL LINK ページの LINK PARAMETER の選択肢に ATT を追加しました。
- Overview ウィンドウの EQ/DYN1/DYN2 をダブルクリックすることで Selected Channel ウィンドウが開くようになりました。
- PATCH LIST ページで出力ポートに指定されているすべてのパッチがポップアップメニューでわかるようになりました。
- チャンネル名にカーソルがあるとき、キーでカーソルが移動するようにしました。

改善点

- M7CL-48ES と同期(PC->CONSOLE)を行なうときに、STAGE BOX SETUP の設定を M7CL-48ES に送るかどうか選択できるようにしました。
- M7CL-48ES では、スロット 1 に挿入した Mini-YGDAI カード(MY16-ES64 など)を通じて SB168-ES などの外部ヘッドアンプを制御する EXTERNAL HA ページを Rack ウィンドウに追加しました。
- Rack ウィンドウの EXT-ES HA ページに VIEW 切り替えボタンを追加しました。
- PATCH LIST ページで出力ポートを複数選択できるようにしました。
- PEQ の Q のパラメーター値が 16 まで対応しました。

修正した不具合

- ユーザーレベル設定で操作が制限されているユーザーが M7CL にログインしているとき、M7CL V3 Editor と接続してオンラインにしても M7CL V3 Editor からの操作が制限されてしまう不具合を修正しました。

EditorV3.0.4 for Win

修正された不具合

- RECALL SAFE MODE ポップアップウィンドウで、MIX/MATRIX チャンネルの ALL および WITH MIX/MATRIX SEND をリコールセーフに設定したときにそのチャンネルの OUTPUT PATCH がリコールセーフされない不具合を修正しました。
- RECALL SAFE MODE ポップアップウィンドウで、あるチャンネルの ALL または OUTPUT PATCH をリコールセーフに設定したときに、SAFE ボタンが OFF になっているほかのチャンネルの OUTPUT PATCH もリコールセーフされてしまうことがある不具合を修正しました。

- RECALL SAFE MODE ポップアップウィンドウで以下の設定をした場合、INPUT チャンネルの INSERT PATCH と DIRECT OUT がリコールセーフされない不具合を修正しました。
 - SAFE PARAMETER SELECT フィールドで INPUT チャンネルの ALL をリコールセーフに設定する。
 - GLOBAL RECALL SAFE フィールドで OUTPUT PATCH をリコールセーフに設定する。
- INPUT チャンネルの ALL をリコールセーフに設定し、フォーカス機能で IN PATCH が選択されているシーンをリコールしたときに、その INPUT チャンネルの INSERT PATCH と DIRECT OUT がリコールセーフされない不具合を修正しました。

改善点

- RECALL SAFE MODE ポップアップウィンドウで、GLOBAL RECALL SAFE フィールドの OUTPUT PATCH の設定が SAFE PARAMETER SELECT フィールドの該当する設定 (OUTPUT PATCH、DIRECT OUT のアウトプットパッチ、INSERT PATCH のアウトプットパッチ) よりも優先されるように変更しました。

EditorV3.0.3 for Win

修正された不具合

- GLOBAL RECALL SAFE フィールドで「INPUT PATCH」のリコールセーフを設定している際に、CH RECALL フィールドの「HA」リコールセーフ設定が無効になる不具合を修正しました。

EditorV3.0.0 for Win

新機能

- M7CL-48ES に対応しました。
- Sends On Fader ウィンドウを追加しました。SENDS ON FADER モードでは、Editor 上のフェーダーを使って MIX/MATRIX バスへのセンドレベルを調節できます。また、SENDS ON FADER モードでもインプット系チャンネルのオン/オフの状態がわかるように、オフの場合はフェーダーがグレー表示されます。
- System Setup ダイアログボックスに Channel Select/Sends On Fader を追加しました。チャンネル選択および Sends On Fader 機能を M7CL 本体と Editor の間で連動させるかどうかを選択できます。
- System Setup ダイアログボックスに、Conversion ボタンを追加しました。従来は外部 HA を使用するシステムと内蔵 HA を使用するシステムのデータには互換性はありませんでしたが、以下の組み合わせにおい

て相互にデータ変換ができます。

- 「スロット経由で外部 HA を使用するシステム」と「内蔵 HA を使用するシステム」の組み合わせ

- 「M7CL-48ES システム」と「スロット経由で外部 HA を使用するシステム」の組み合わせ

「M7CL-48ES システム」と「内蔵 HA を使用するシステム」はデータに互換性があるため変換する必要はありません。

- Rack ウィンドウの GEQ/EFFECT で、RACK5~8 にマウント可能なエフェクトタイプとして、以下の VCM エフェクトを追加しました。
 - COMP276, COMP276S, COMP260, COMP260S, EQUALIZER601, OPENDECK
- ユーザー定義キーに割り当て可能な機能として、M7CL EDITOR CONTROL - SENDS ON FADER を追加しました。

改善点

- Mixer Setup ダイアログボックスにあった Input Channels を Model Select とし、チャンネル数ではなくモデルを選ぶ方法に変更しました。また、この項目が System Setup ダイアログボックスの Set Default の対象であるため、Mixer Setup ダイアログボックスから System Setup ダイアログボックスに移動しました。
- Scene ウィンドウの RECALL SAFE で、以下のパラメーターのリコールセーフを個別に設定できるようにしました。
 - インプット系チャンネル: INPUT PATCH, INSERT PATCH, INSERT, DIRECT OUT
 - アウトプット系チャンネル: OUTPUT PATCH, INSERT PATCH, INSERT
- Library ウィンドウの INPUT CH に、+48V インジケータを追加して、リコールする前に+48V の設定が確認できるようにしました。
- Rack ウィンドウの GEQ/EFFECT で、RACK5 の初期エフェクトを REV-X HALL に、RACK6 の初期エフェクトを REV-X ROOM に変更しました。
- ユーザー定義キーの初期設定を、以下のように変更しました。
 - [1] SENDS ON FADER - MIX ON FADER
 - [2] SENDS ON FADER - MATRIX ON FADER
 - [3]-[8] PAGE CHANGE - PAGE BOOKMARK
 - [11] HOME - MOMENTARY
 - [12] TALKBACK - TALKBACK ON - UNLATCH
- Mixer Setup ダイアログボックスの Bus Type/Send Point を Send Point for Input Channels に名称変更しました。

修正された不具合

- Windows 7 における以下の不具合を修正しました。
 - スクロールバーが細く表示される。
 - Rack ウィンドウの GEQ/EFFECT フィールドを表示しているとき、31BandGEQ の選択肢が一部欠けて表示される。
- M7CL 本体とオンライン状態で、Administrator、External User または Guest ユーザーがログインしている場合、プリファレンスの設定変更をリアルタイムに M7CL 本体に反映されるように修正しました。